

キュメント 挑戦

ディスプレー



P 2

発グループ第三開発長
土田正美は、いきなり最大
の難関に突き当たった。

発光体の有機EL（エレクトロルミネッセンス）材料を薄いプラスチック基板

プラスチック基板と有機EL材料の間に、水分を遮断する膜を入れようと決めたが、問題はその膜をどうな材料で作るかだった。せんべいやスナック菓子の袋にも、湿気を防ぐ酸化ケイ素という物質の膜をはつてある。だが、有機EL材料

防湿膜開発へ愚直に実験



アキラヘルツィー、リヒテンシュタインの親王である。

「なぜ、そういう結果になつたのか。材料開発はわが社の強化シリコンの膜といふ。それを考えるのが面白」。疑問がわくたびに自分で仮説を立て、懇意に実験を繰り返す。好奇心が土田を支えた。音響機器の設計からディスプレードイツの開発部隊に移り、ガラス基板を使った有機ELディスプレーの研究に加わった時は、が今年五月にあつた。

有機EL材料の構造を二か
ルム状ディスプレーは完成し、土田は十一月、EL分野の学会で発表する。

ない点にぶつかられ強。わからぬでいる。一つ一つ解きほぐしていくのは慣れている。

防湿膜開発の手ごたえをつかんだのは昨年の夏。やや茶色がかったてはいるが、要求される防温性能を満たす硬化シリコンの膜ができるが、手仕掛け人はバイオニアアンド

情報メディア研究者らと共同で、東京・青山で開いた「ファッションショウ」「メイア・アッシュション」。フルム状ディスプレーを腕の胸元に付けた未来型の衣服を紹介し、服が情報機器となる可能性を示した。携帯電話やノート型パソコンを持ち歩かなくても、情報を扱うことができるというわけだ。

この「ファッションショウ」と

れる環境をデザインした。」
「…」といふ思いを開発陣に語りつけた。彼も土田と同様、イスプレーの未来を切り出さないといふとしている一人だ。

「アッシュションショウ」「メデア・アッシュション」。フィルム状ディスプレーを腕や腰に付けた未来型の衣服を紹介し、服が情報機器に接続する可能性を示した。携帯電話やノート型パソコンを歩かないででも、情報が手で扱えるといふわけだ。このファンションショウで、新型ディスプレー開発に着手した人はバイオニア・デザイン事業開発部マネージャーの原澤直希(36)。十数年間、動きを聞きつけ、「いつ

「なぜ、そういう結果になつたのか。材料開発はわが社の強化シリコンの膜といふ。それを考えるのが面白」。疑問がわくたびに自分で仮説を立て、懇意に実験を繰り返す。好奇心が土田を支えた。音響機器の設計からディスプレードイツの開発部隊に移り、ガラス基板を使った有機ELディスプレーの研究に加わった時は、が今年五月にあつた。

有機EL材料の構造を二か
ルム状ディスプレーは完成し、土田は十一月、EL分野の学会で発表する。

オニアデザイン（東京・黒）が服飾デザイナーや報メディア研究者らと共に、東京・青山で開いた「アッシュションショウ」「メタアッシュション」。フィム状ディスプレーを腕元に付けた未来型の衣服を紹介し、服が情報機器による可能性を示した。携帯電話やノート型パソコンを仕掛け人はバイオニアデザイン手ができるというわけだ。